

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 引野 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.5	77	6.3	70	22.2	62	6.8	45
全国	24.8	77	6.5	72	23.3	65	7.2	48

(2) 本校の学力調査結果の分析

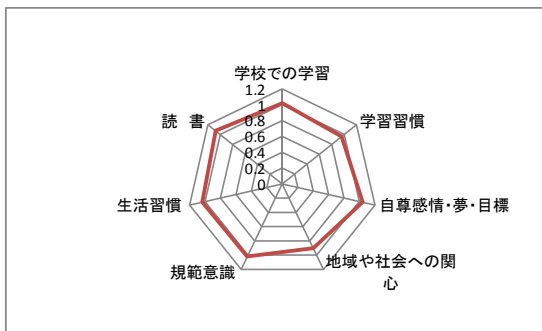
国語A	全体的な傾向や特徴など	・文章を適切な形に書き直す問題に課題があり、正しい言葉の使い方や書き方について復習する必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	事象や行為などを表す多様な語句について理解する問題は、無回答率が低かった。	
	努力が必要な問題	古典には様々な種類の作品があることを知る問題は、正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・言語についての知識・理解・技能について課題があり、言語事項や伝統的な言語文化についての基礎内容を定着させる必要がある。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	全体的に記述式に関する問題の無回答率が低かった。	
	努力が必要な問題	比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く問題は正答率が低かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	・計算問題については反復練習の機会も多く、理解できている生徒が多いのに対し、論理的思考が求められる内容については復習が必要である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	一次方程式や連立方程式の計算については、正答率も高く、無回答率も低かった。	
	努力が必要な問題	関数領域に苦手意識をもつ生徒が多く、正答率も低かった。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	・筋道を立てて考え証明することを記述で答える問題に課題があるが、全体的に無回答率が低く、難しい問題にもあきらめずに取り組んでいる。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	記述を求められる問題の正答率が高く、無回答率も低かった。	
	努力が必要な問題	図形の問題に対する正答率が低い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動や、与えられた課題に積極的に取り組むなど、学校での学習活動は充実しているが、自ら学習計画を立てて勉強に取り組むことができていないため、家庭での学習習慣の工夫改善が必要である。 ・規範意識が高く、将来への夢や目標をもっている生徒が大半を占めている。また、自らのよところを認め、積極的に進路を考えている生徒が多い。 ・地域や社会への関心が全体的に低く、地域の行事等にも積極的に参加できていない。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・学力定着サポートシステムの活用により、個に応じた基礎学力の定着を図る。 ・放課後の補充学習や、宿題プリントを中心とした家庭学習、課題の提出物を徹底させる取り組みを継続する。 ・学年が上がるとともに、時間、内容ともに効果的な自主学習の習慣を身に付けさせる。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やニュース等に触れ、社会や時事に関心を持つ機会をつくらせたり、積極的に地域行事等に参加する機会を設けたりすることで視野を広げさせる。 ・学校通信や学年通信、懇談会等で基本的な生活習慣や家庭学習の意義、取組について理解を図る。
--